

2017年 6 月 16 日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 こどもの里
代表者・役職名 氏名 代表理事 荘保 共子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

若者の居場所づくり事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1977年に大阪市西成区のあいりん地区(釜ヶ崎)のこどもたちの遊び場「子どもの広場」として創設。後、1980年に「こどもの里」として新たな場所で開設される。遊び場からこどもたちと家族の相談の場、生活の場とな

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

家で過ごすことができない10代後半の若者たちがいます。居場所のない若者たちがいます。児童養護施設で不適応を起こした若者や少年院や鑑別所からの受け入れ先がない若者たちがいます。また、親がなくなったり、失踪したり、親との関係が悪化して家にいれない若者たちがいます。そんな若者たちを社会が養護しなければなりません。若者たちが“普通”に生活する場所が社会に必要です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

本ホームは、昨年開設したばかりであり、事務作業にかかわる備品やこどもの生活を支える基本的な備品が十分整備できていません。現在は、法人内の他の事業所に借りているものもあり、まずは、これを数年かけて整備していきたいと思っています。次年度は、以下のものを考えています。

- ・事務用ノートパソコンの購入(基本ソフト含む)
- ・給湯器の設置
- ・冷蔵庫の購入
- ・自転車(1台)の購入(入居者、職員兼用)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

事務用のノートパソコンを購入したことでスタッフがリビングで事務作業をしながら、ホーム入居者とのコミュニケーションが以前よりも多くなった。給湯器、冷蔵庫の購入により適切な入浴ができるようになり(以前は湯音の調節が難しかった)、多くの食材の保存ができるようになり食生活が豊かになった。ホーム専用の自転車を購入したことにより食材の買い出しや入居者の公的な手続きが容易となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

地域の中で“家庭で生活することが難しい若者たちが頼れる場所”としてあり続けていきます。若者たちが一般的に享受できること一学校へいくこと、仕事をする事、毎日ごはんを食べること、寝る場所が確保されていること、したいことをできる・聞いてくれるなど、を「あたりまえの権利」として保障していきます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

購入物品の写真

購入した物品

冷蔵庫



事務用パソコン



自転車



給湯器

